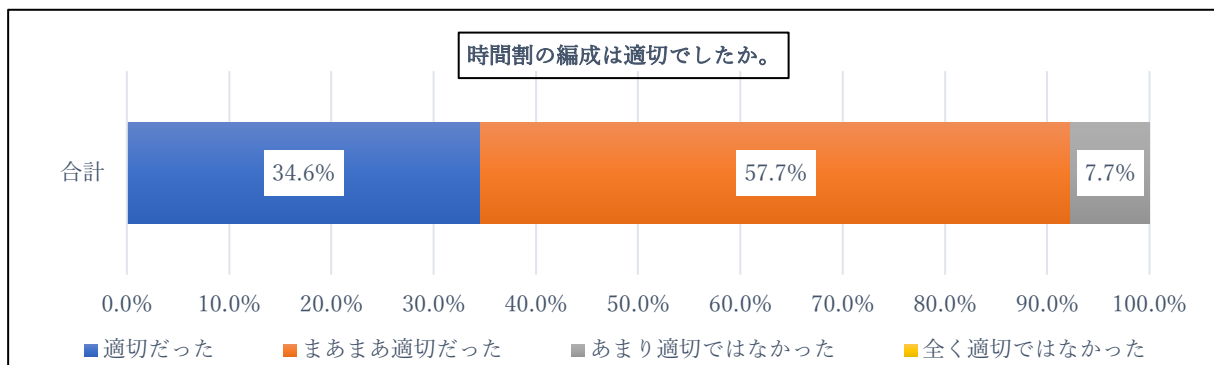
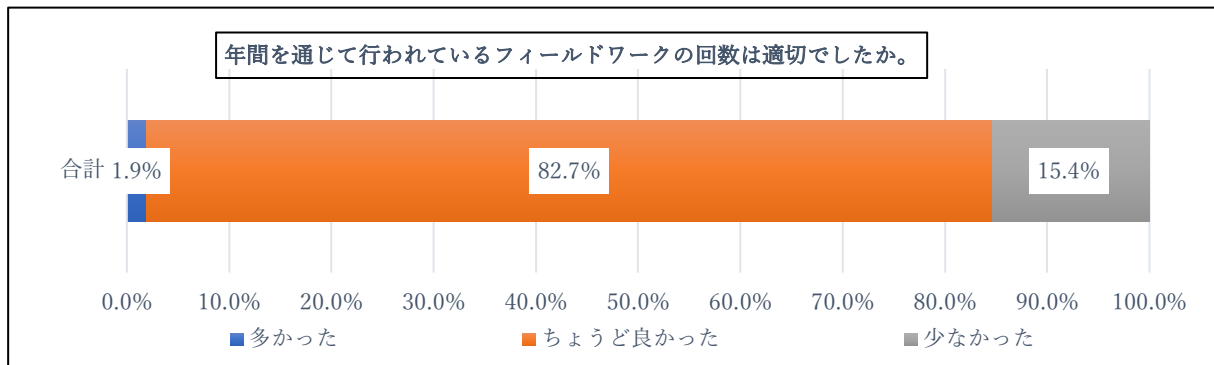
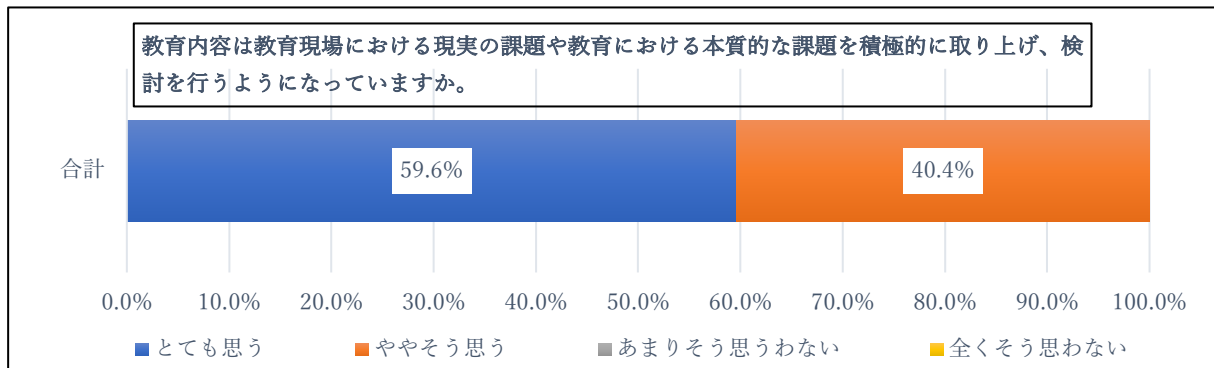
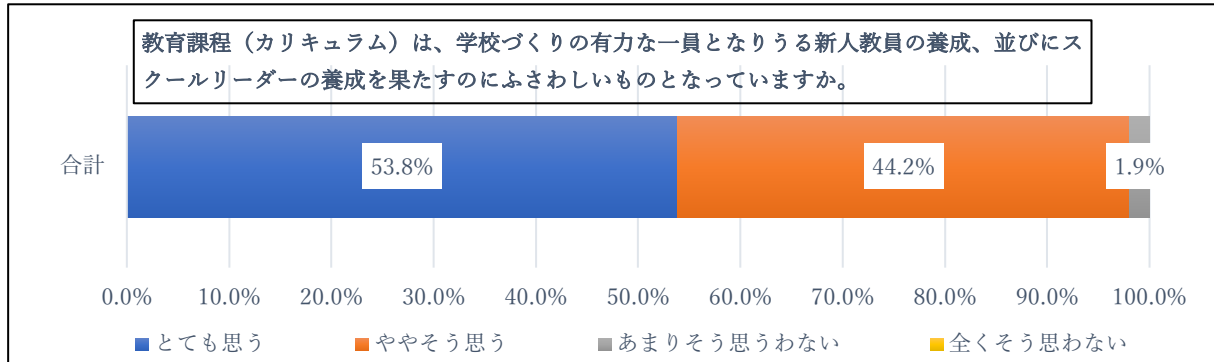


2022 年度「研究科アンケート」

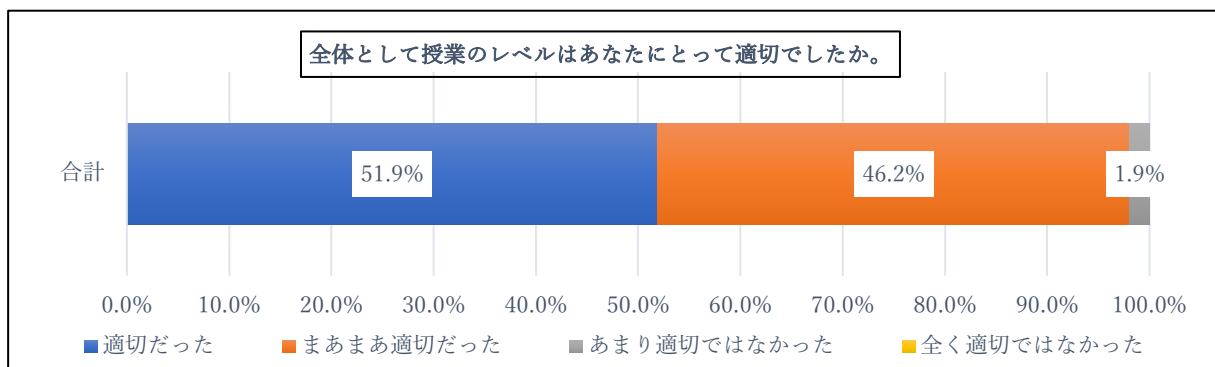
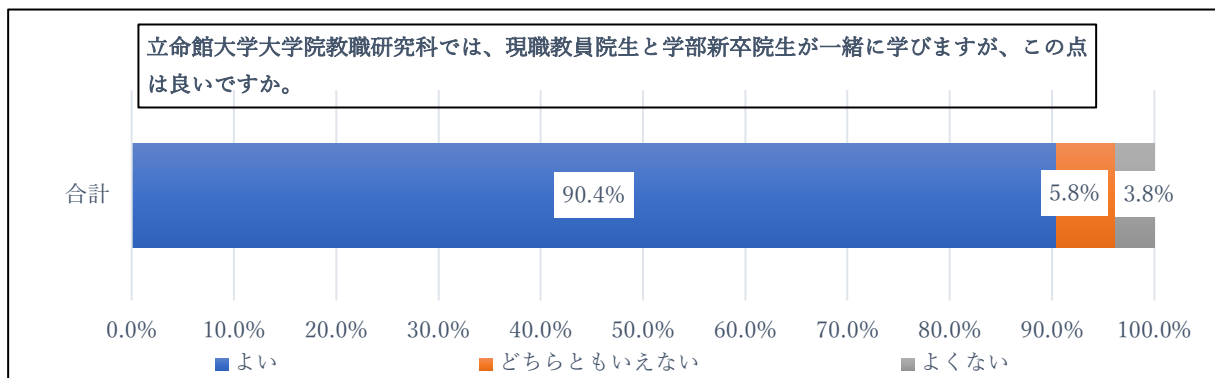
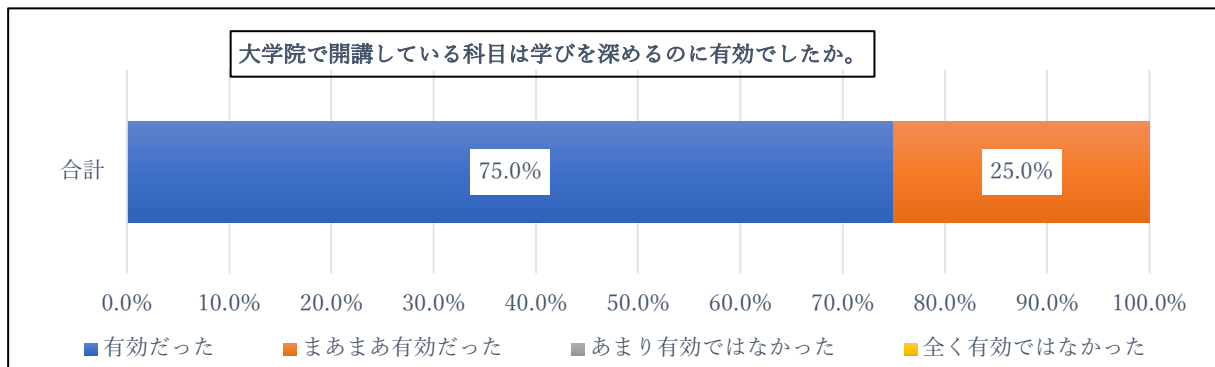
2022 年度の研究科アンケートは 2023 年 3 月に実施され、在學生 27 名、修了生 25 名、計 52 名から回答が得られた。回答結果の傾向及び特徴について、設問区分ごとに以下にまとめる。

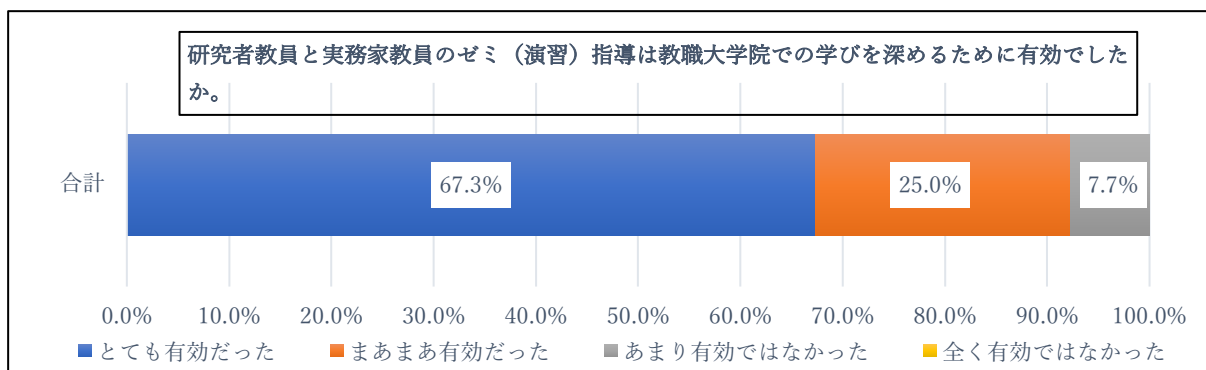
(1) 教育課程について



「教育課程について」は、肯定的な回答の割合が8～9割以上の水準にあり、おおむね良好であると言える。特に「教育内容は教育現場における現実の課題や教育における本質的な課題を積極的に取り上げ、検討を行うようになっていきますか」という設問では、前年度に引き続き否定的回答が皆無であった。フィールドワークについてもコロナ禍の影響から回復し、「少なかった」との回答が5ポイント近く縮減した。時間割について「あまり適切ではなかった」との回答が前年度より増加したが、修了要件に含まれない他コース必修科目等が同一時間帯に重なっていたことなど、積極的な学びのニーズが背景にあるものと推察される。新カリキュラムの運用面及び修了後の学びの継続支援が今後の検討課題と考えられる。

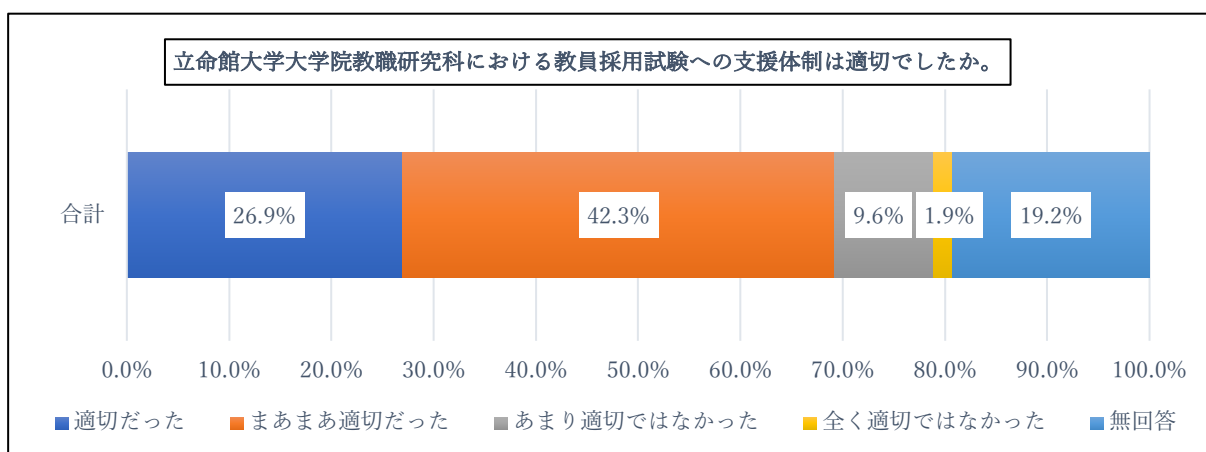
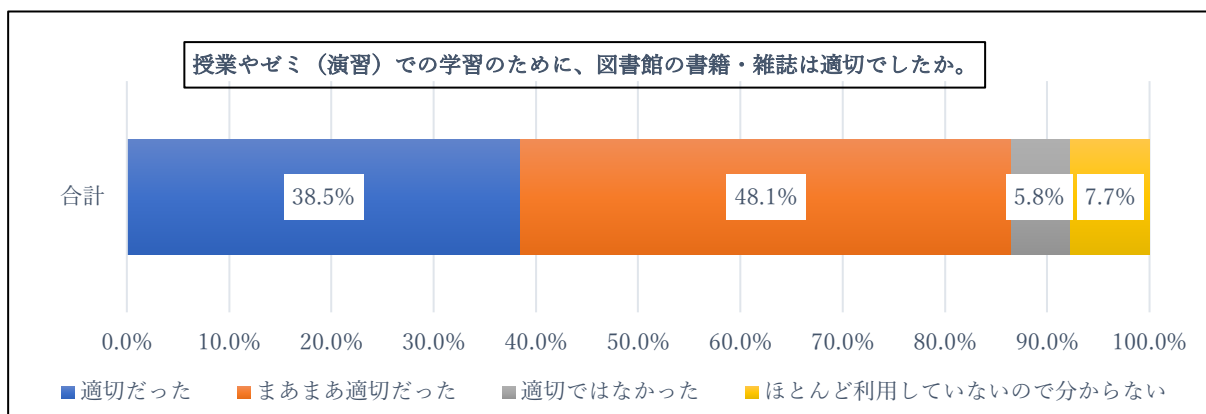
(2) 授業について

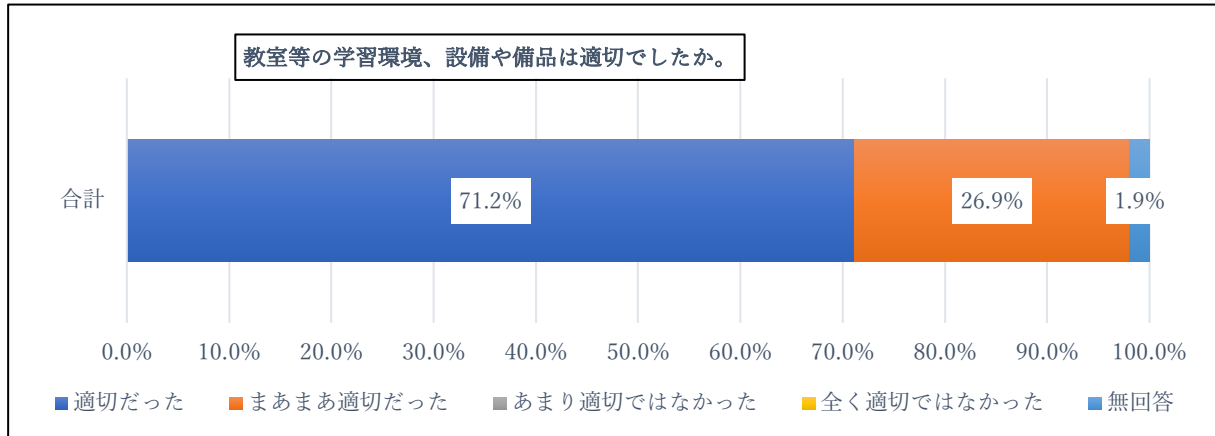
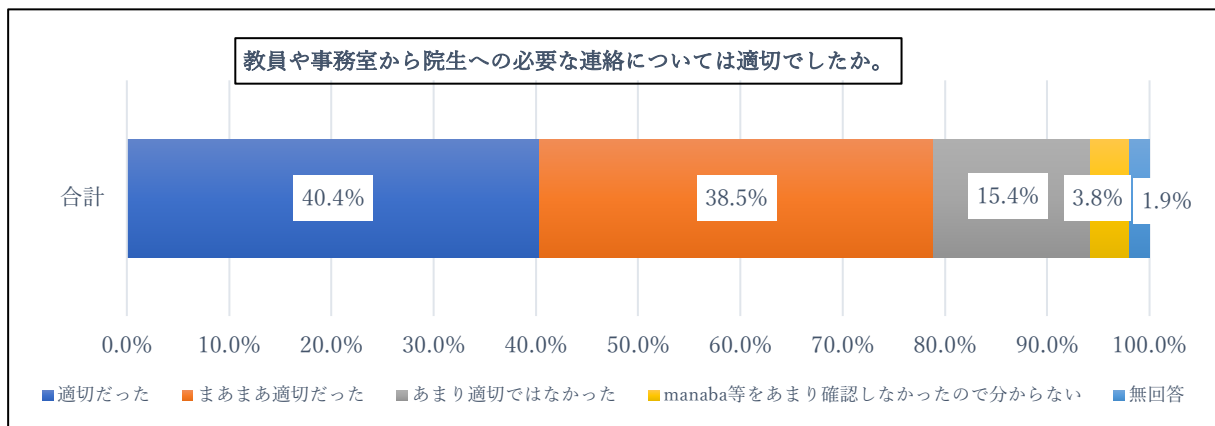
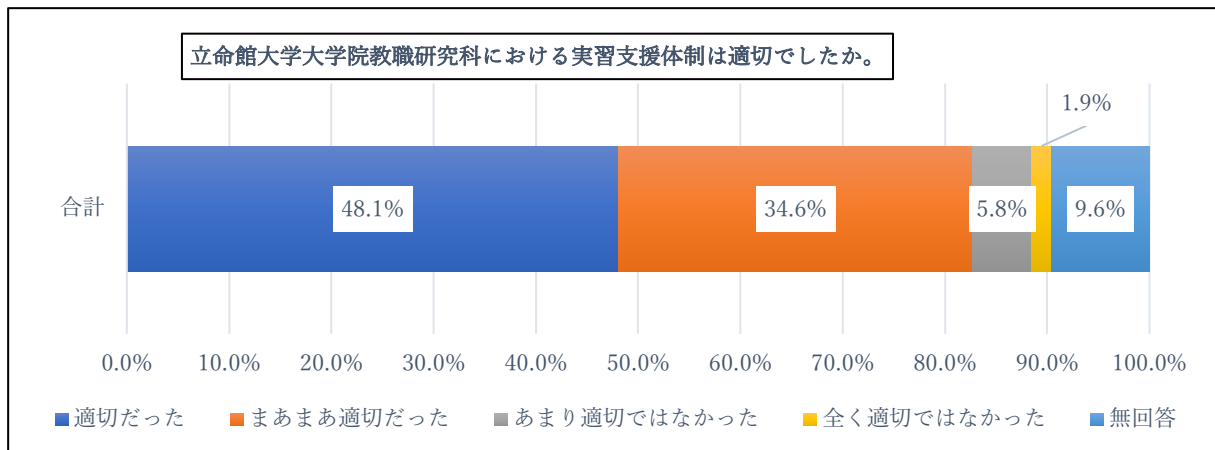




「授業について」の結果についても、肯定的回答が9割以上の高い水準で維持されている。特に「大学院で開講している科目は学びを深めるのに有効でしたか」という設問においては、否定的回答が皆無であった。現職教員院生と学部新卒院生が一緒に学ぶことについても肯定的回答が9割を超えているが、それぞれのニーズに特化した部分の割合等について課題が残されているかもしれない。新カリキュラムにおいて改善が図られるかどうか注視したい。

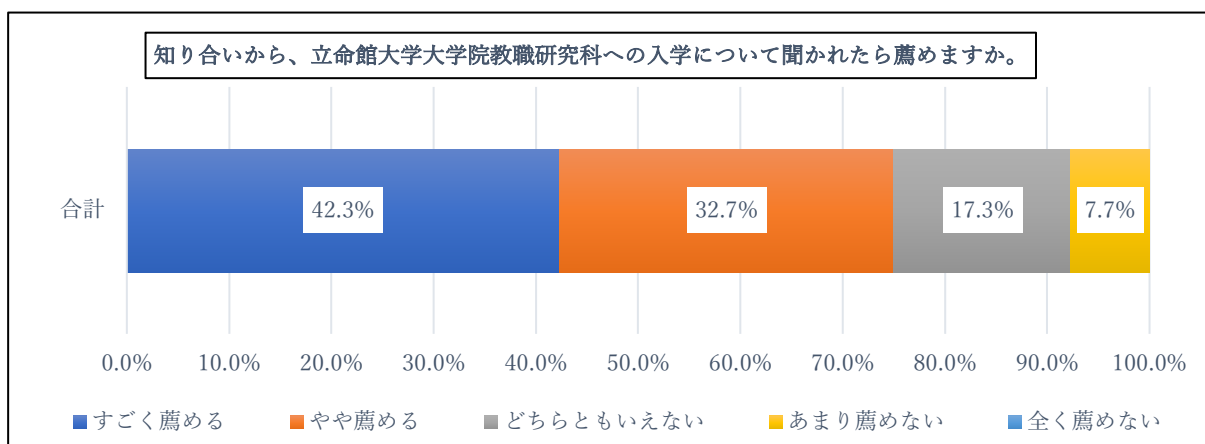
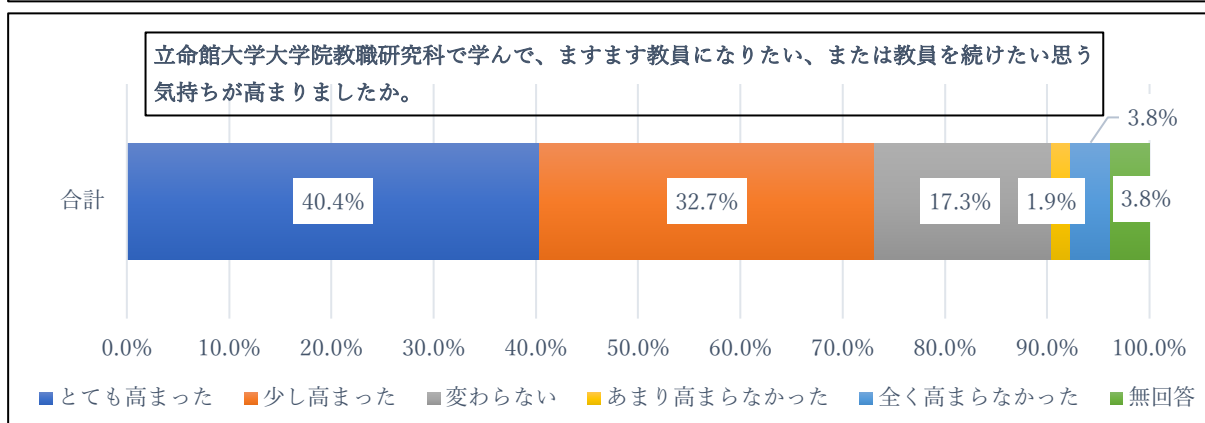
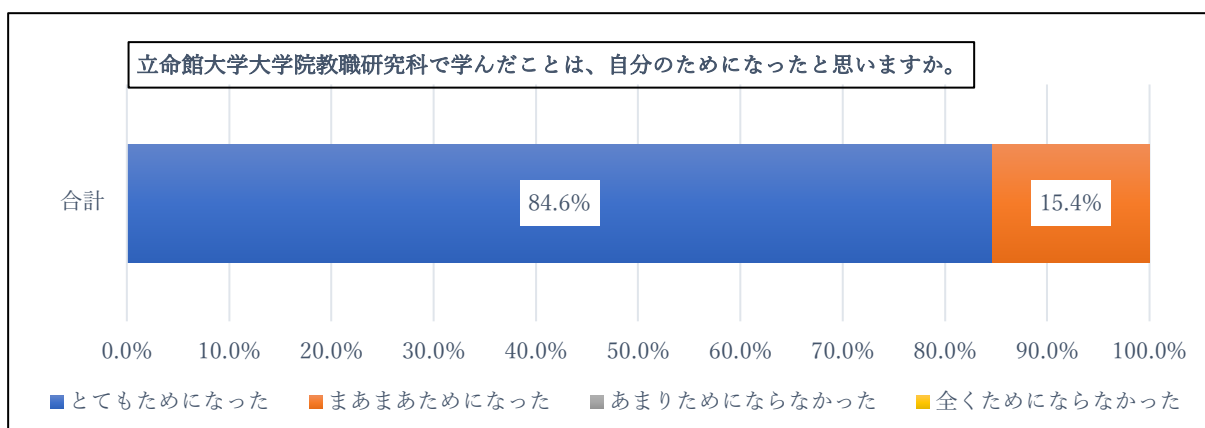
(3) 学生支援について





「学生支援について」は、2023年度から開始の「オンライン受講」に向けた実験・試行等に伴う端末の導入や関連機器の設置が2022年度に進んだことから、教室等の学習環境や設備・備品に関する設問において「適切」との回答割合が6ポイント程度増加した。一方、実習等の支援体制については、やや否定的な回答が増加した面があり、教員異動に伴う体制変更の影響を受けた可能性がある。

(4) 全体を通して



教職大学院の学びが「とてもためになった」との回答が8割台で、前年度とほぼ同水準にあり、否定的な回答は皆無であった。また、入学前から高い水準にあると思われる「教員になりたい」「教員を続けたい」という意欲がさらに向上している院生が多いが、教職研究科への入学を知り合いに薦めるかどうかについての設問では、肯定的回答が7割台にとどまっている点に留意し、さらなる改善を図る必要がある。自由記述欄には、修了後も学び成長し続けること、マネジメントやコーディネート、事務処理能力など、より幅広い資質・能力に関するニーズに関する記述も見られ、FD活動を軸に研究科全体の教育力向上を図るとともに、修了生を含むネットワークの充実による支援体制の強化等による対応が課題と考えられる。